

2022 年度
事業計画書

学校法人 行吉学園

目 次

1	はじめに	p.1
2	2022年度の事業計画	p.2
	<中期目標・中期計画に基づく事業計画>	
I	教育に関する目標を達成するための計画	p.2
1	自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画	p.2
2	教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画	p.2
3	教育内容に関する目標を達成するための計画	p.2
4	教育課程に関する目標を達成するための計画	p.3
5	教育方法に関する目標を達成するための計画	p.3
6	国際化に関する目標を達成するための計画	p.4
II	研究に関する目標を達成するための計画	p.4
1	研究業績に関する目標を達成するための計画	p.4
2	学生の研究に関する目標を達成するための計画	p.5
III	社会貢献に関する目標を達成するための計画	p.5
1	社会貢献に関する目標を達成するための計画	p.5
IV	学生の進路に関する目標を達成するための計画	p.5
1	進路支援に関する目標を達成するための計画	p.5
2	専門就職に関する目標を達成するための計画	p.6
3	優良企業就職に関する目標を達成するための計画	p.6
4	公務員就職に関する目標を達成するための計画	p.6
5	Uターン就職に関する目標を達成するための計画	p.7
V	学生支援に関する目標を達成するための計画	p.7
1	学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画	p.7
2	経済的支援に関する目標を達成するための計画	p.7
VI	施設・設備に関する目標を達成するための計画	p.8
1	施設・設備に関する目標を達成するための計画	p.8

VII	入試広報に関する目標を達成するための計画	p.8
1	入試広報に関する目標を達成するための計画	p.8
VIII	幼稚園に関する目標を達成するための計画	p.9
1	幼稚園に関する目標を達成するための計画	p.9
IX	組織に関する目標を達成するための計画	p.9
1	定員充足に関する目標を達成するための計画	p.9
2	大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画	p.9
X	財政に関する目標を達成するための計画	p.10
1	健全財政に関する目標を達成するための計画	p.10
(別表)	I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画	p.11
3	法人の体制	p.18
I	設置する学校・学部・学科等（2022年度予定）	p.18
II	役員の概要（2022年4月1日予定）	p.19
III	教職員の概要（2022年4月1日予定）	p.19
IV	組織機構図（2022年4月1日予定）	p.20

1 はじめに

学校法人行吉学園は、建学以来、豊かな知性を育む教養教育と高度な知識・技術を養う実学教育を通じて女性の自立を支え、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成してきたところである。しかし、昨今の大学を取巻く環境は、受験人口の更なる減少や大手私立大学の定員増等の影響から大変厳しい状況下であり、本学が今後とも発展していくためには、これまでに積み重ねてきた丁寧な教育を基本としつつ、これからの社会が必要とする能力を身に付けた卒業生を輩出していかなければならない。

このため、学校法人行吉学園では、これらの要請に応えていくために取り組むべき各般の施策の方向性を、2019年度を初年度とする5か年で達成する中期目標として定め、また、中期目標を達成していくため行動計画として中期計画を策定したところである。

そこで、中期目標並びに中期計画を達成していくために2022年度に取り組むべき施策の中から主な施策について、事業計画として次のとおり策定する。

2 2022年度の事業計画

＜中期目標・中期計画に基づく事業計画＞

(注) □内は中期計画、「・」は中期計画に対応する事業計画を示す。

I 教育に関する目標を達成するための計画

1 自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画

【I-1】

自立心・対話力・創造性について、到達度調査の改善をはかり能力獲得の測定ツールとして確立し、各学科等において三つのポリシーに沿った学生の能力の伸長が実現できているか検証を行う。

また卒業生アンケート等により、獲得した能力と社会で求められている能力に乖離がないか検証を行う。

【I-1-1】

- ・到達度調査は、コロナ下での傾向改善の検証を主たる目的として行う。
- ・三つのポリシーの見直しについて、要否を含めて議論を行い、必要に応じて改訂する。
- ・短大は、三つのポリシーの再編を実施する。
- ・卒業生アンケートの実施結果の分析・検証を行い、必要に応じて問題の解決を図る。

2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

【I-2】

各学科、研究科等において、ディプロマポリシーに掲げる能力が身につけているか検証するための指標を開発したうえで目標を設定し、目標達成に向けたカリキュラムの改編など各種施策を実行する。

【I-2-1】

- ・各学科、各研究科等の計画は別表のとおり

3 教育内容に関する目標を達成するための計画

【I-3】

本学を卒業した学生全員が身につけておくべき能力に関する資質と、それに関わる指標を開発し、共通教養科目のカリキュラムを精査する。全専任教員が共通教養科目運営に関わる仕組みを整備する。英語教育については全学で組織的な教育体制を整備する。

【I-3-1】

- ・「数理データサイエンス AI プログラム」検討部会において、Society5.0 社会と AI 教育を見据えた共通教養情報科目を再編し、このプログラムの令和 6 年度開講を目指し、具体案の策定を行う。
- ・全学共通教育独自のカリキュラムポリシーを基にして、能力別クラス編成を行なってい

る英語について学習効果の検証に必要な指標開発を行う。

- ・学生へのライブラリーコモンズの利用促進や、学生による図書館ボランティア活動を積極的に進め、図書館の魅力と発信力をより高める。
- ・大学院修了者に求められる高度な英語力を含むグローバル化に対応できる能力およびデータサイエンスに関する知識を身に付けるための共通カリキュラムを設け、新たな科目を開設し、運用を始める。

4 教育課程に関する目標を達成するための計画

【I-4】

ナンバリングを利用した履修指導を行い、学生の体系的な学習を進める。また、学生の学習時間の確保に向け、履修上限単位数を引き下げるとともに、教養科目及び各学科における専門科目の科目数の圧縮をはかる。さらに、GPA を運用するうえでの課題を整理し、学生指導において有効な活用方法を開発する。

【I-4-1】

- ・各学科における各種資格の必要性について、一層の検証と整備を行う。
- ・学科間の GPA 値の標準化を図り、学生指導において有効な活用方法を検討する。
- ・各学年・学科のオリエンテーションで授業外学習時間の意義を明確に説明する。

5 教育方法に関する目標を達成するための計画

【I-5】

授業アンケートを充実させ、教育方法の改善につながる仕組みを整備する。また FD 活動に全教員が参加する体制を整備し、教育支援ツールの活用等を推進する。教育効果に向け、IR データの収集・分析を進める。

【I-5-1】

- ・改訂した「授業アンケート」を実施するとともに、ティーチングポートフォリオの導入について検討を行う。
- ・「神女 FD ルーム」を活用した授業見学や、情報発信を行い、実質的な授業改善につながる取り組みを行う。
- ・manaba 等の利用方法に関する講習会や発表会を年 1 回程度リモート開催し、教員間での利用方法の共有化を図り、授業形式に関わらず録画データの授業利用を促進する。

6 国際化に関する目標を達成するための計画

【I-6】

派遣留学については、既存プログラムの内容の検証・改善を行うとともに、外国語運用能力の向上、国際交流に対して保証人の理解を深めるための活動を行う。留学生の受入については、提携校の開拓と受入体制の整備を行う。国際交流活動内容、現地およびオンラインプログラムの質の向上や、双方向の国際交流活動の充実を図る。

【I-6-1】

- ・協定校や交流のある大学の学生とのオンラインによる「グローバル・リーダーシップ」をテーマに国際協働学習（Collaborative Online International Learning : COIL）を実施する。
- ・学生が海外プログラム（現地及びオンライン）に複数回にわたり参加しやすくなるように、各プログラムを履修科目として単位化する方法及び経済的支援方法を検討する。
- ・海外派遣実施については、ステークホルダーが様々な危機に対する意識を高め、対応できるように、リスク管理セミナーの内容を見直し、更に充実させる。
- ・海外派遣留学プログラムとオンライン学習との両立を目指す。更に両者の連携を高め、派遣留学の教育効果を高める。オンライン学習・オンラインプログラムを単位化する。
- ・様々な国際交流の場面で交流のある大学や国際交流機関組織等の中で、現在協定を締結していない組織に関して締結の可能性を検討し、締結への準備を行う。または、既に締結出来る段階の場合は、協定を締結する。
- ・英語に加え、多言語のグローバルカフェを継続強化し、新たに「世界を知ろう」カフェを追加する。
- ・国連持続可能な開発のためのアジェンダ 2030(Sustainable Development Goals: SDGs)に関連した学術的な国際交流セミナーの実施を強化する。

II 研究に関する目標を達成するための計画

1 研究業績に関する目標を達成するための計画

【II-1】

教員の職位ごとに一定期間で最低限必要な研究業績の基準を設定し、毎年チェックを行う体制を整備する。研究活性化に向け、学外研究費の情報収集と学内への周知を強化する。

【II-1-1】

- ・職位ごとに一定期間で最低限必要な研究業績の基準について、業績評価基準の指標や最低限必要とされる業績のラインなどを絞り込んでいく。
- ・社会貢献分野との連携や学外情報の収集・周知をさらに進めていく。

2 学生の研究に関する目標を達成するための計画

【Ⅱ－2】

学生の研究を活性化するため、大学院生と学部生が交流する機会を増加させるとともに、学会等の情報を提供して参加を促す。また、特別に優れた学部生・短大生の研究・探究活動について表彰制度を整備する。

【Ⅱ-2-1】

- ・優秀な学生の顕彰制度の一環として、3回生担当の Advanced English Seminar で、優秀な research paper を選定し賞を与える。(英語英米文学科)
- ・教育学専攻での研究発表会へ学部生の参加を呼びかけるとともに、大学院に進学した先輩との懇親会を開き、大学院での学びの有用性を伝える。(教育学科)
- ・学部学生と大学院生がともに参加可能なプロジェクトを計画・推進する。(健康スポーツ栄養学科)
- ・看護学部の同窓会組織を活用し、特に卒業生への進学に対する意識を深める。(看護学科)

Ⅲ 社会貢献に関する目標を達成するための計画

1 社会貢献に関する目標を達成するための計画

【Ⅲ－1】

地域や企業・団体の課題解決を目的とした連携活動を増やす。学生の教育効果の充実をはかりつつ、地域連携、公開講座、産学連携、高大連携等事業として毎年複数件稼働させる。共同研究、受託研究の推進及び各種学協会の公募型研究への教員の応募を支援する。

【Ⅲ-1-1】

- ・公開講座については、出産前後における女性支援をターゲットに新たな取り組みについて検討を始める。
- ・地域や企業・団体との連携プログラムを質的に深化させ、新たな地域ニーズの掘り起こしを継続する。
- ・高大連携については、引き続き協定締結高校などとの教育交流活動や交流研究活動に本学教員が参加し、これをサポートすることを目指す。

Ⅳ 学生の進路に関する目標を達成するための計画

1 進路支援に関する目標を達成するための計画

【Ⅳ－1】

1年次から卒業まで途切れのないキャリア支援活動を展開するとともに、学科等とキャリアサポートセンターの連携を強化して丁寧な支援を行う。保証人への情報提供を進め、保証人と協力した進路支援を行う。就職だけでなく進学への支援も強化する。

【Ⅳ-1-1】

- ・PBL型インターンシップを新規メニューとして実施していく。

- ・ゼミ単位や学科単位でのガイダンスの促進と、学科との学生情報の共有など連携を強化する。
- ・S-NAVIによる3回目の「進路決定満足度調査」を実施し、調査結果の分析内容を学生指導及び企業対応に役立てる。

2 専門就職に関する目標を達成するための計画

【IV-2】

各学科の専門性を活かした就職を支援するため、学科等とキャリアサポートセンター・就職支援センターの情報共有、職種ごとの就職ガイダンスを実施する。就職の前提となる資格試験や教員採用試験の合格に向けて、関係機関との連携を強化する。

【IV-2-1】

- ・卒業生で教員就職者を招聘し、オンライン等でのフォーラムを開催する。
- ・中四国地方に加え、関東地区で卒業生が多く教員として就職している自治体へも訪問を実施し、関係強化を図る。
- ・ライブラリーコモンズとの連携や、大短一体で実施可能な取り組みについて検討し実施する。

3 優良企業就職に関する目標を達成するための計画

【IV-3】

事業規模・内容に加え、離職率等の状況も含めた優良企業に多くの学生が内定を獲得できるための支援を行う。基礎学力や情報スキル向上のため、対策講座や資格講座の活用をはかる。

【IV-3-1】

- ・企業の人事の方や業界に触れることができる業界研究セミナーを企画し、実施する。
- ・100社以上の大企業や優良企業を招き、オンライン方式での学内合同企業説明会を行う。また、例年以上の個別企業説明会を実施する。
- ・学生のニーズに応じて、地方企業の説明会などを実施する。

4 公務員就職に関する目標を達成するための計画

【IV-4】

公務員就職を増やすため、1年次から意識の涵養をはかる。また公務員試験対策講座の受講を勧め、各地域の試験情報、試験内容を提供するとともに、面接対策を実施する。

【IV-4-1】

- ・1年次に公務員に就職した卒業生の体験談発表会や、公務員の仕事についてのガイダンスを行い、意識の涵養をはかる。
- ・Uターン希望者を中心に公務員試験の受験を促す。

5 Uターン就職に関する目標を達成するための計画

【IV-5】

Uターン希望率やUターン就職率等の調査を実施したうえで、Uターン希望者の就職を確実に実現する支援を行う。また、地方公共団体とのUターン協定を推進するとともに、地方優良企業との関係構築をはかる。

【IV-5-1】

- ・内定実績のある地方優良企業の学内説明会の機会を増やす。
- ・1年次からUターン就職説明会への参加を促進する。
- ・学生アンケートや進路希望調査を基に学生のUターン希望者数を把握し、Uターン就職の特長化を図る。

V 学生支援に関する目標を達成するための計画

1 学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画

【V-1】

学生満足度及び帰属意識に関する指標を開発する。退学率低減のため、退学者予備軍の把握が可能な仕組みと、関係部署によるフォロー体制を整備する。学生の出身地域別コミュニティ組織化や、上級生によるピアサポート制度を活性化させる。また、各クラブの活性化をはかるためのクラブ紹介の方法や、魅力あるクラブ育成の方策を検討する。

【V-1-1】

- ・授業改革に伴う通学の混雑緩和、利便性向上のため、バス路線の運行強化や新規路線の運行を始める。
- ・上級生によるピアサポート制度の活性化を進めていく。
- ・地方出身者の地域別コミュニティを組織し、履修相談や進路相談等を気軽に行える仕組みの整備を進める。
- ・各クラブの活性化を図るために、専門的知識やスキルのある指導者を確保し、魅力あるクラブ育成を継続して行う。
- ・障がいを持つ学生支援の体制強化の一環として、障がいを持つ学生や、配慮を要する学生支援のためのセミナーを開催する。

2 経済的支援に関する目標を達成するための計画

【V-2】

公共団体による奨学金制度及び福祉や看護などの資格取得と就職支援に関する奨学金の情報収集を強化し、学生への周知を図る。

【V-2-1】

- ・コロナ支援対策を含む公共団体等の奨学金の情報を収集し、関係学生に迅速に周知を図る。

- ・公共団体、福祉施設及び病院等における奨学金制度の情報について、他部署との連携を図りながら学生への周知および的確な対応を行う。

VI 施設・設備に関する目標を達成するための計画

1 施設・設備に関する目標を達成するための計画

【VI-1】

施設・設備及び教育環境に関する学生満足度指標を開発し、学生のニーズに配慮した整備計画を策定する。安全性や劣化状況を踏まえた施設・設備のメンテナンス及び更新を行う。学生の大学生生活充実に資するスペースの改修を進める。

【VI-1-1】

- ・授業改革を推進するため、アクティブ・ラーニング対応の可動式机を配置した教室の増設や、遠隔授業用・簡易収録用ブースの設置を継続して進める。
- ・安全性や劣化状況を踏まえ、施設・設備のメンテナンスを適切に進める。
- ・学生アンケートの要望と室内環境学を履修している学生からの意見を参考に、ラウンジ改修の具体案を構築し、改修の実施を目指す。

VII 入試広報に関する目標を達成するための計画

1 入試広報に関する目標を達成するための計画

【VII-1】

各学科との連携を強化し、就職・資格取得に強い本学の特長に関する積極的な広報活動を実施する。質の高い情報提供や出前授業による高校との関係強化をはかるとともに、地域や高校の特徴に応じたより戦略的な広報活動を展開する。高大接続改革に対応した入試制度改革を進め、多面的な評価により意欲・能力ともに高い学生の獲得を実現する。

【VII-1-1】

- ・キャリアサポートセンター、教職支援センター、国家試験等支援対策事務室と連携し、具体的な実績や支援情報を発信することで、就職や資格に強いイメージを高める。
- ・志願者減少のエリアと高校を特定し、減少原因の分析と志願者増加に向けた戦略を策定し、実行する。
- ・入試制度や入試の仕組みの改革を行い、志願者にとって分かりやすく受験しやすい入試を行い、志願者増を目指す。
- ・地域ごとに入試、志願者の動向を分析し、その結果に応じた広報の展開、ツールの作成を行う。
- ・高校との連携強化のため、探究授業との連携や、出張講義のコンテンツ化を行う。
- ・高校教員・保護者向けツールの新規製作を行い、本学の新しい魅力と「安心して行かせたい大学」であることを訴求する。

- ・オープンキャンパス特設ホームページの制作を行い、学科からの情報も掲載し更新することで、オープンキャンパス来訪者の増加につなげる。
- ・高校への出前授業の展開や、キャンパス見学や授業体験の受け入れを積極的に行い、低学年層から本学への関心を高める機会とする。

VIII 幼稚園に関する目標を達成するための計画

1 幼稚園に関する目標を達成するための計画

【VIII-1】

地域の幼児数の将来予測や他園の運営状況を分析し、定員確保に向けて運営形態、運営方法の見直しをはかる。無償化を含めた就学前教育制度の変革に対応していく。

【VIII-1-1】

- ・新たに0歳児の受け入れを行い、教育及び保育の全体的な計画の下、安全な運営に努める。
- ・2・3号認定児の希望者増加に伴う定員増に対応するため、教員の研修や経験を積む。
- ・長期休業中の給食提供を1号認定児の預かり保育でも提供できる体制を構築する。

IX 組織に関する目標を達成するための計画

1 定員充足に関する目標を達成するための計画

【IX-1】

社会が必要とする人材及び受験生が志望する分野の動向を把握し、常時各学科等の教育内容の見直しや新学科等の設置を含め学科の在り方等を検討していく。

定員未充足を解消するための対策基準の周知・徹底をする。

【IX-1-1】

- ・志願者回復に向け、教育内容の充実や広報戦略の強化について全体計画を決定し、各学科、部門での取り組みを進める。
- ・大学・短大ともに収容定員未達の対応策の検討を図り、具体的な再編計画を構築する。
- ・社会情勢及び受験生の動向の把握、他大学の改組等に関する情報の収集を引き続き行う。
- ・2022年度に新設された心理学部について、社会とのつながりを持ち、学生が成長する教育活動を行い、積極的に情報発信をすることで、定員充足を安定的なものとする。

2 大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画

【IX-2】

法令上の制約等を踏まえたうえで、大学と短大の教学部門の組織や委員会等について統合もしくは合同設置等を実現し、効率的かつ効果的な運用が行えるよう、教学及び事務組織の体制整備をはかる。

【IX-2-1】

- ・改編された事務組織と所管業務が円滑に運営・遂行されるよう各部門での連携協力に

努める。

- ・各部門が取りまとめた「課題とその改善策」に基づいた遂行状況を点検し、新たな課題の抽出とその改善案を取りまとめる。

X 財政に関する目標を達成するための計画

1 健全財政に関する目標を達成するための計画

【X-1】

寄付金や補助金及び資産運用収入の増加をはかるとともに、管理経費や人件費等の支出費の見直しを行い、財務体質の強化を進める。人件費については、将来に亘り運営が可能な人員配置及び各種制度の変更を検討する。各学科の科目数・コマ数の適正化をはかり、大学・短大全体で効率的な教育課程を整備する。

【X-1-1】

- ・学園全体の ICT 化の推進により「ペーパーレス」や「各種コスト（時間）」の削減につなげる。
- ・システムによる勤務時間管理を円滑に行うとともに、長時間勤務者に対して、関係者と連携し勤務時間の縮減に向けて調整する。
- ・コロナ禍における支援寄付金を活用し、「学生向け 100 円朝食」をスタートさせ、寄付者の方々へホームページでお礼と共に報告を行う。

(別表)

I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

神戸女子大学

文学部	2022 年度計画
日本語日本文学科	<p data-bbox="547 376 1348 465">日本語運用能力、表現力及びコミュニケーション能力向上に向けた取組や、キャリア意識涵養に向けた取組を行う。</p> <ul data-bbox="547 477 1348 745" style="list-style-type: none">・ 古典文学関係、日本語表現関係科目の更なる改良を検討する。・ 学科行事として文学散歩や芸能鑑賞などの体験学習を行う。またウィズコロナ・アフターコロナの社会に対応して実施できる形態を模索する。・ 全学年向けの就職内定者報告会を実施し、個人と社会との結びつきを自覚させるとともに、学生同士の結びつきを強める。
英語英米文学科	<p data-bbox="547 779 1348 869">専門性及び英語運用能力強化に向けた取組とカリキュラム改編を行う。</p> <ul data-bbox="547 880 1348 1104" style="list-style-type: none">・ 情報化社会での新たな英語に対応するための新科目を開講する。・ 英語で卒業論文を書く学生の比率を高める。・ 特別講師を招いた TOEIC 集中講義を継続する。・ JAL との産学連携を進める。
国際教養学科	<p data-bbox="547 1137 1348 1272">国際教養修得度の指標開発を行うとともに、専門性及び語学力強化に向けた取組みとカリキュラム改編、学生の研究活性化及びキャリア意識涵養に向けた取組を行う。</p> <ul data-bbox="547 1283 1348 1709" style="list-style-type: none">・ 国際教養修得度の指標を確定し、数値目標を設定する。・ 大幅改定した新カリキュラムをスタートさせ、効果や課題を検証する。・ アジア言語の強化のために、関連科目の新規開講やアジア圏の各 OCP 先とのオンライン交流イベントを実施する。・ 夏休みの長期化を活用し、One-Week TOEIC Summer Program (仮称) を計画、実施する。・ 論文指導の強化とともに、学生の研究成果を顕彰するための優秀論文発表会を開催する。

史学科	<p>歴史についての基礎知識を充実させ、歴史学の基本原則を堅持しつつ、表現力、コミュニケーション能力の向上をはかるカリキュラム編成と指導体制を検討する。学生の研究活動の活性化、および異学年交流のための合同ゼミ発表会等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎を学ぶ概論群科目の積極的な履修を促す。 ・アクティブ・ラーニングの一環として、1回生でゼミ毎の学外実習と全体でのプレゼンテーションや、民俗学、考古学の実習科目等で学外の史跡・博物館等の見学を積極的に取り入れる。
教育学科	<p>子どもの理解及び指導力に関する指標の開発、専門性強化及び教採合格に向けた取組とカリキュラム改編を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を用いた ICT 活用模擬授業を実施する。 ・義務教育コースの学生を中心に、海外留学セミナーを実施する。 ・中学校英語免許課程の充実に向けたカリキュラム改編の検討を行う。
家政学部	
家政学科	<p>コース体制の問題点の把握と改善を実施し、家政学の体系的な学びを構築するためのカリキュラムの見直しを行うとともに、家庭科教員養成校としての役割の強化及び各種資格を活用した学びを展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生前期末に家政学の視座・視点がどの程度獲得できているかについてアンケートを実施・分析し、対処方法を決定する。 ・新カリキュラムの下、異学年編成のグループワークを実施し、異学年での学び合いを目指す。 ・教員志望者への教育活動と支援の充実を図る。 ・各種資格取得に関わる指導の充実・向上を目指す。
管理栄養士養成課程	<p>管理栄養士のリーダーとなりうる人材を養成するため、食と健康のプロに関する指標を開発する。専門性強化及び国家試験全員合格に向けた対策とカリキュラム改編に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標開発のために学科のルーブリックを策定し、卒業論文を含めた他の科目の評価に拡大する。 ・コロナ禍での卒論発表会を充実させるために、実施時期や方法等について具体的な実施方法を策定する。 ・キャリア意識の涵養強化のため、外部講師を活用した機会

	を設け、管理栄養士の専門性について意識の強化を図る。
健康福祉学部	
社会福祉学科	<p>社会福祉士国家試験全員受験に向けた取組と、カリキュラムの改編を行う。高校、短大等への出張講座に出向き、社会福祉に対する理解を目指す。学生の研究活性化や、キャリア意識の涵養強化に向けた取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験の傾向分析及び授業への反映を徹底するため、より早期にシラバス作成に着手する。 ・ 兵庫県進路選択学生等支援事業を活用した出張講座について、今年度を上回る実績を目指す。 ・ 公務員の採用実績について今年度以上の採用実績を目指す。
健康スポーツ栄養学科	<p>スポーツ関係を重視した専門性の強化及び学科の特長明確化に向けた取組とカリキュラム改編を行う。また、学生の研究活性化、大学院希望者の掘り出し、キャリア意識の涵養強化のための取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習先を管轄する企業とインターンシップ内容を充実させ、主体的に課題解決能力やコミュニケーション能力・責任感を高めるプログラムの作成を行う。 ・ 高校へのスポーツ栄養の出前授業や説明会開催を最大限行うとともに、学園祭などの機会を利用し、運動部のマネージャーを対象としたスポーツ栄養の講習会などを、学内で実施する。 ・ 幅広い分野からの大学院進学希望者が現れるように、学科・研究科で協力し大学院における研究の楽しさ・発展性について学部学生に周知していく。

看護学部	
看護学科	<p data-bbox="584 232 1345 412">教育の特色化及び質保証に取り組む。保健師・助産師・看護師国家試験全員合格に向けた1年次からの学習支援を行う。充実した実習先との連携強化を行う。教員の看護実践活動の推進を行う。</p> <ul data-bbox="584 434 1345 792" style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの開始と、大学の授業改革による授業内容等の変更について、教育評価アンケートの結果から変化を分析し、次年度の授業計画に活用する。 ・保健師選択学生全員に公務員ガイダンスを実施し、受験希望者には公務員直前対策講座を勧める。 ・卒業生を演習指導者として招聘する仕組みを作る。 ・看護学部独自の同窓会を設立し、年1回は卒業生が学ぶ機会も含めた母校とのつながりを持てる体制を構築する。
心理学部	
心理学科	<p data-bbox="584 981 1345 1205">他者との対話を通じた相互理解に基づいて、行動を選択できる能力を養成するため、社会の中に広がっている膨大な情報の質を見極めて取捨選択して客観的に分析し、臨床実践や経済活動の場で活かしていくことのできる資質を有した人材を育てる教育を展開する。</p> <ul data-bbox="584 1227 1345 1877" style="list-style-type: none"> ・1年次より、人間行動に関するデータを客観的に分析できる基本的技能を高めるため、「ノートパソコン必携」の導入を試み、心理学科全体で情報分野のカリキュラムの充実を図る。 ・「社会とつながる学び」を1年次から体験・学修し、3年次のPBL研究活動に発展させていくために、全学共通教養科目で、本学「臨床心理センター」や地域、企業とタイアップした授業内容を展開する。 ・大学での生活面・学業面の支援、そして1年次からキャリア支援を行うために、「学生支援ポートフォリオシステム」の構築を目指す。 ・「臨床心理センター」を開設し、地域社会のニーズを捉え、こころのケアや健康増進の情報発信として、講演やワークショップなどを行う。

神戸女子大学大学院

<p>文学研究科</p>	<p>指導教員の研究成果のさらなる向上をはかるとともに、研究の魅力を普及して学部生の進学意欲を喚起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部ゼミでの研究を活性化しつつ、大学院と学部の合同研究会を開くなどして研究の魅力を普及し、学部生の進学意欲を喚起する。 ・他研究室、他大学との交流を活性化し、外部の学会への積極的な参加を促す。 ・学部教員の業績の積み上げを促し、大学院担当教員層を厚くする。
<p>家政学研究科</p>	<p>研究の強化、学部との接続強化、大学院の PR 施策の強化を図る。また、院生の就職支援、魅力ある制度の新設にも力を入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他研究室、他大学との交流を評価項目の 1 つとした活動評価表を完成させ、交流の活性化を促す。 ・キャリアサポートセンターによる就職支援に対する大学院生の声をフィードバックし、さらに実効性のあるものとするためにワーキンググループでの検討を行う。 ・大学院生の研究発表会への学部生参加や、卒論発表会への大学院生の参加を促すことで、学部と大学院の一体感を学部生に示し、接続を強化する。
<p>健康栄養学研究科</p>	<p>大学院の魅力を伝えるため、学部講義内で大学院生の発表会実施や大学院の HP を魅力あるものに変えていく。栄養士実務経験と研究力両立に向けた取組を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会、学会への参加を促し、他大学の大学院生との交流を深められるようにする。 ・修士 1 年生の講義で研究の基礎トレーニングが行える体制を構築する。 ・キャリアサポートセンターと連携し、修士 1 年生の早い段階から就職を意識した活動ができる体制を維持する。
<p>看護学研究科</p>	<p>大学院生の研究能力の向上に取り組む。また、教育の特色化に向けて専攻分野の見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学研究に関連する科目の授業過程の質評価に基づく授業改革を実施し、授業前後のアンケート結果を分析して評

	<p>価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部生へ大学院生の研究を紹介する機会を設け、学部生の進学意欲を高める仕組みを構築する。 ・前期課程と後期課程の専攻分野の見直しを行うことで、学びのコミュニティを形成し、教育の継続性や一貫性を確保する。
--	--

神戸女子大学専攻科

学校教育学専攻科	<p>実践的で高度な能力に関する指標を開発・作成し、目標数値を設定するとともに、学部との接続強化をはかる。学習の前倒しをしながら、1次試験合格レベルの学力を養い高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数制の授業が展開できることを利点とし、充実した教育を行う。 ・入学予定者に対して、前年度2月から学習の前倒しをして、筆記および面接試験の合格レベルの力を養い高める。
----------	---

神戸女子短期大学

総合生活学科	<p>輩出する卒業生の特徴・意欲・実践力に関する指標の開発及び強化に向けた取組とカリキュラム改編を行う。また、科目数の削減と集中、大学への接続機能の特長化、キャリア意識の涵養強化に向けた取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合生活学科の学びを特長化する就職や進学をした学生の履修モデルを作成し、学生の進路支援を行う。 ・高校生への学内での体験授業の実施を検討する。 ・編入学強化のための対策講座及び個別指導を継続する。
食物栄養学科	<p>専門性の強化、特長の明確化及び学生の意欲引き上げに向けた取組と、既存科目の内容強化を行う。卒業生を大切にすることを特長化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスや校外実習オリエンテーションの内容を充実させ、異学年で学び合う内容を充実させる。 ・幼児用給食施設に対するアレルギー等の講習会実施を継続する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士養成課程と連携した編入推進を継続する。 ・卒業生の管理栄養士国家試験対策講座をオンラインで実施する。
<p>幼児教育学科</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>保育実践力に関する指標開発及び向上を図る取組を行うとともに、公立幼稚園教諭・保育士採用試験合格に向けた対策強化を行う。保育士再就職支援講座を開設し、卒業生支援を実施する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度からの授業改革に伴う時間割の大幅見直しで確保できた時間を利用し、教職支援センターと連携した教員採用対策講座の実施を目指す。 ・地方自治体との情報交換を阪神、淡路、播磨西方面に広げる。 ・保育士再就職支援講座の開設を検討する。 ・職業訓練生の受け入れを開始し、「保育者になりたい」社会人の受け入れに積極的に取り組む。 ・「認定ベビーシッター」資格科目の受講生を増やし、授業の充実に取り組む。

3 法人の体制

I 設置する学校・学部・学科等（2022年度予定）

区 分	学部・学科等			入学定員	収容定員	予定数
神戸女子大学 大 学 院	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	前期	8	16	16
			後期	2	6	1
		生活造形学専攻	前期	6	12	0
			後期	2	6	0
	小 計			18	40	17
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	前期	4	8	1
			後期	2	6	0
		英 文 学 専 攻	前期	4	8	0
			後期	2	6	1
		日本史学専攻	前期	4	8	3
			後期	2	6	0
	教育学専攻	前期	4	8	0	
		後期	2	6	1	
	小 計			24	56	6
健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻		4	8	13	
看護学研究科 (博士課程)	看護学専攻	前期	8	16	14	
		後期	3	9	8	
合 計			57	129	58	
神戸女子大学	家 政 学 部	家 政 学 科	80	320	320	
		管理栄養士養成課程	160	620	570	
		小 計	240	940	890	
	文 学 部	日本語日本文学科	60	240	217	
		英語英米文学科	60	240	194	
		国際教養学科	60	200	164	
		史 学 科	60	240	216	
		教 育 学 科	165	660	574	
		小 計	405	1,580	1,365	
	健康福祉学部	社会福祉学科	80	320	254	
		健康スポーツ栄養学科	80	320	271	
		小 計	160	640	525	
	看護学部	看護学 科	90	360	357	
	心理学部	心理 学 科	80	80	88	
学校教育学専攻科			15	15	1	
合 計			990	3,615	3,226	
神戸女子 短 期 大 学	幼 児 教 育 学 科			80	160	83
	総 合 生 活 学 科			100	200	125
	食 物 栄 養 学 科			60	120	95
	合 計			240	480	303
幼保連携型認定こども園 神戸女子大学附属高倉台幼稚園			—	170	168	
総 計			1,287	4,394	3,755	

II 役員の概要（2022年4月1日予定）

（1）定数等

区分	定数	実数			任期	備考
		常勤	非常勤	計		
理事	8人	4人	4人	8人	4年	1号理事（学長）の任期は在職期間
監事	3人	—	3人	3人	4年	

（2）寄附行為の選任条項

（理事）

第6条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

（1）神戸女子大学長

（2）評議員のうちから評議員会において選任した者 4人

（3）学識経験者のうちから理事会において選任した者 3人

2 前項第1号及び第2号の理事は、学長又は評議員の職を退いた時は、理事の職を失うものとする。

（監事）

第7条 監事は、この法人の理事又は職員（学長、教員その他の職員を含む。）又は評議員以外の者のうちから理事会において選任する。

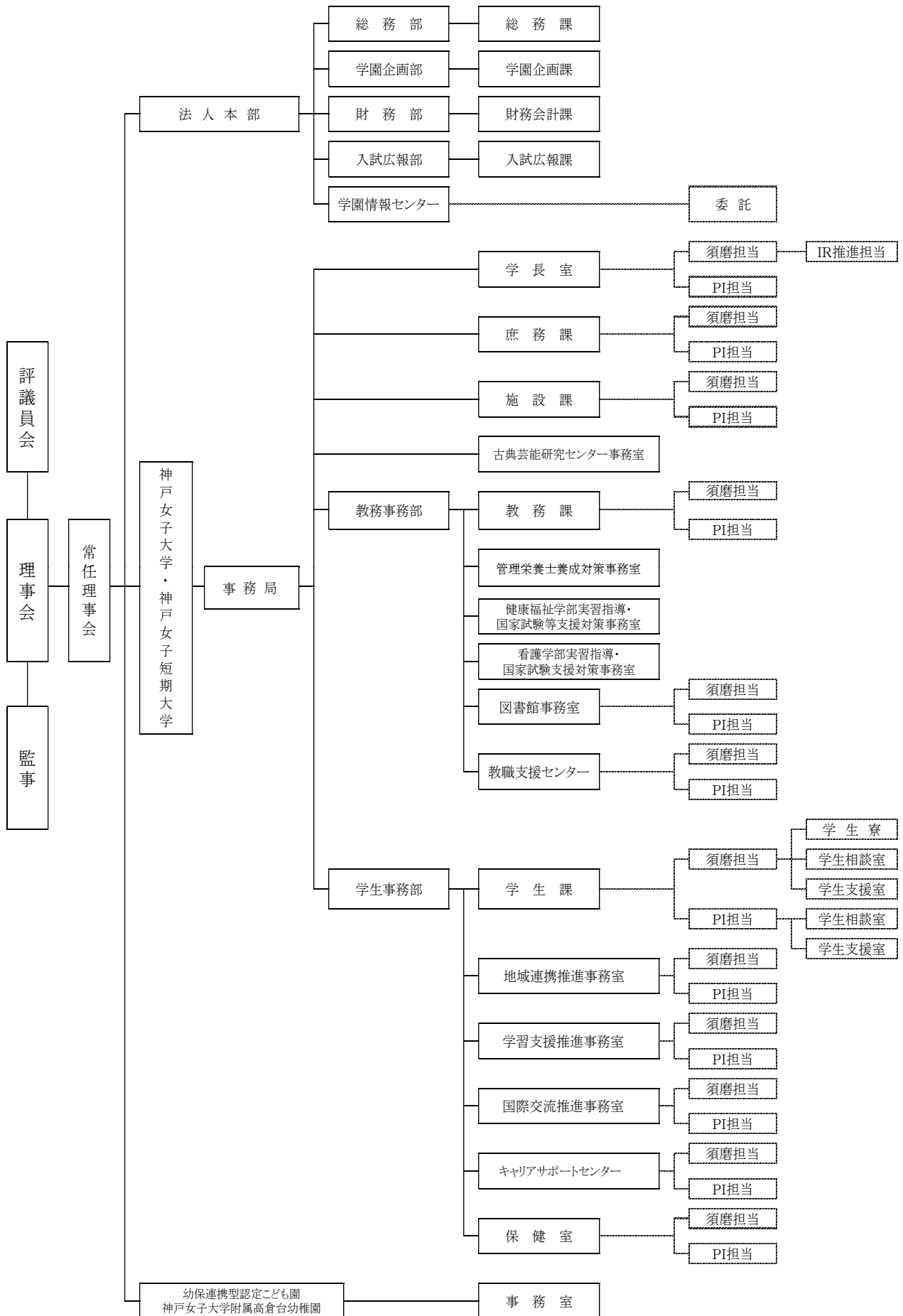
（3）役員一覧

区分	氏名	就任年月日	重任年月日	選任区分	選任条項
理事長	行吉 宜孝	H31.4.1	—	学識経験者	6-1-3
理事	栗原 伸公	H31.4.1	—	神戸女子大学長	6-1-1
理事	今井 修平	H18.4.1	(H30.6.29)	評議員	6-1-2
理事	前田 研史	H31.4.1	—	評議員	6-1-2
理事	伊吹 眞澄	H30.6.29	—	評議員	6-1-2
理事	多畑 寿城	R4.4.1	—	評議員	6-1-2
理事	根岸 成直	H18.6.29	(H30.6.29)	学識経験者	6-1-3
理事	小川 清四郎	H30.6.29	—	学識経験者	6-1-3
監事	横田 成樹	H26.6.29	(H30.6.29)	理事会選任	7-1
監事	亀井 尚也	H23.5.27	(H30.6.29)	理事会選任	7-1
監事	打越 信男	R3.6.29	—	理事会選任	7-1

III 教職員の概要（2022年4月1日予定）

区分	法人本部	神戸女子大学	神戸女子短期大学	附属高倉台幼稚園	合計
専任教員数	—	191	32	13	236
専任職員数	9	75	8	3	95
計	9	266	40	16	331

IV 組織機構図 (2022年4月1日予定)





「自立心・対話力・創造性」
を培う教育を目指しています

学校法人行吉学園

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4丁目7-2

Tel : 078-303-4712

Fax: 078-303-4713